



笠松の「モラルセンス」偉人編 No.12



めい だいかん さかい しちざ えもん

神社にまつられた名代官 酒井 七左衛門

松枝輪中を守った畑繫(はたつなぎ)堤の大恩人として、畑繫神社にまつられています。



畑繫(はたつなぎ)神社は、柳津町にあるカラフルタウンの東側にあります。この神社にまつられているのは、尾張藩北方奉行所の酒井七左衛門代官です。なぜ、酒井代官は神様として畑繫神社にまつられるようになったのでしょうか？

江戸時代は笠松を始め、木曾三川の下流域は毎年のように水害に苦しめられていました。その水害から人々を救おうと宝暦4年(1754年)から薩摩義士によって行われた命がけの宝暦治水はあまりにも有名です。この治水工事が多くの犠牲のうえに完成したことで、西濃地域の水害は激減しました。しかし、松枝輪中は宝暦治水工事で大樽川洗堰(おおぐれがわ あらいぜき)を築いた以後、川の水が逆流し、たびたび洪水の被害にあうようになりました。このため、堤防を造ることを許可して欲しい旨、奉行所に願い出ました。ところが近隣の輪中から強い反対を受けたため、許可はおりませんでした。天明2年の水害で特にひどい被害をこうむった松枝の人たちは、天明3年(1783年)に無許可で堤防をつくる工事を強行しました。これ以後28年間にわたって、近隣の輪中と激しい論争が繰り返されることとなりました。天明4年には松枝輪中の農民の代表4人(奥村元右衛門ほか渡辺、伊藤、野田の4人)が北方奉行所に強訴しましたが、投獄され獄中死しました。

松枝輪中の農民は正式な堤防を作ることが許されないまま、畑と畑を盛り土でつないで堤防を作っていました。その堤防の長さは1600メートルにもなりました。この農民の執念とも言うべき畑繫堤は文化4年(1807年)にほぼ完成しました。その2年前に北方奉行所の代官になっていた酒井七左衛門代官は「流れた土を元に取り繕う。」という松枝輪中の農民の主張を認め、築堤を黙認しました。文化10年に江戸幕府の評定所に喚問された酒井代官は、「松枝輪中だけを水害で苦しめてはいけない。」と主張しました。酒井代官の論に納得した幕府は堤防を作ること許可し、酒井代官が取った行動を賞賛しました。このような酒井代官の献身的な努力をたたえ、松枝輪中の人々は「畑繫大神宮」を建立し、畑繫堤の大恩人を今でもおまつりしているのです。

松枝輪中の農民は正式な堤防を作ることが許されないまま、畑と畑を盛り土でつないで堤防を作っていました。その堤防の長さは1600メートルにもなりました。この農民の執念とも言うべき畑繫堤は文化4年(1807年)にほぼ完成しました。その2年前に北方奉行所の代官になっていた酒井七左衛門代官は「流れた土を元に取り繕う。」という松枝輪中の農民の主張を認め、築堤を黙認しました。文化10年に江戸幕府の評定所に喚問された酒井代官は、「松枝輪中だけを水害で苦しめてはいけない。」と主張しました。酒井代官の論に納得した幕府は堤防を作ること許可し、酒井代官が取った行動を賞賛しました。このような酒井代官の献身的な努力をたたえ、松枝輪中の人々は「畑繫大神宮」を建立し、畑繫堤の大恩人を今でもおまつりしているのです。



門間の慈眼寺にあるお墓

神社にまつられた代官 酒井 七左衛門 関係の写真



↑ 門間の慈眼寺 酒井代官は73才で没



↑ 門間の慈眼寺にある酒井代官と4人の墓



↑ 柳津町の畑繫神社 (カラフルタウンの東側)



↑ 畑繫堤跡の碑



↑ ×印が畑繫堤防を作ったところ

